

『日本画の歴史 近代篇』 草薙奈津子 中公新書 2018.11 刊 2019.11.13

先般の〈近現代日本画の軌跡〉展で、特に川合玉堂の「山村積雪」(1957)に魅せられ、無性に画集が欲しくなり。

家内に承諾を得て、日本画の歴史を含め四冊ほど購入。最初に入手した『菱田春草』(アサヒグラフ別冊美術特集)を読み終え、次に入手した玉堂の本はちらちら覗いて、まずは日本画の流れを理解しなくてはと、草薙奈津子著『日本画の歴史 近代篇』(中公新書 2018.11 刊)を読む。こんな詳細で分かりやすい良書があったのかと感嘆。これまでカラー版の文庫本一冊しか読んでいないため流れが頭に入っていなかった。

学生時代に図書館で美術雑誌「みづゑ」を時々眺めていたが、日本画で最初に圧倒されたのが工藤甲人だった。しばらく弘前出身だということも知らず、その写実的で幻想的な世界に魅了されていた。まもなく東山魁夷を知り素直に好きになった。高校3年に文学・芸術に目覚める以前に、絵だけは少年の頃から好きで図画の宿題も進んでやっていた。高校受験で美術の参考書の絵も好んで見ていた。ただ、画家名には無頓着だった。高校に入学後、ミレーやフォンテンブローの森の風景画が好きだった。その後、日本画でも目にした風景画は何でも好きだったが、画家名や歴史が頭に入らず。そして未だ日本画の画家たちの画集は少ししか所持してなく、先のアサヒグラフ別冊幾冊かぐらいである。今では図書館で見たりで他のシリーズの画集での画家名と幾らか作風は知っているが、未だ繋がりをよく理解しておらず、下記のような程度だけであった。

橋本雅邦 (狩野派) → 川合玉堂 → 児玉希望 → 奥田元宋  
↳ 菱田春草 (雅邦門下の四天王)

川端玉章 (円山派) → 結城素明 → 東山魁夷  
川端学校 → (福田豊四郎) → 工藤甲人

今回、本書によって大分知ることができた。著者は慶應義塾大学哲学科出身であり、美術館に長らく勤務しては主要な大学の講師もされ、現在は美術館館長と。歴史を検証するに、これまで多くの展覧会をも訪れ、文献と照合し大変な逐年による著書であろうと感嘆するばかり。日本美術院の前後が分かり、で、本書を読んで山元春挙に興味津々となり。同著者の「現代篇」も読みたくなったのは言うまでもない。

以下に本書の忘備のための箇条書き。これを頭に入れるのも至難の業だが...

## 『日本画の歴史 近代篇』（草薙奈津子 中公新書）の要約

### 1. 明治・大正の南画

- ・江戸末…絵画がほとんど壊滅状態にあった中で唯一氣をはいたのが南画家たち
- ・維新前後には数えきれないほど南画家たちが誕生。が、フェノロサ出現で衰退。

東京－田崎草雲（谷文晁に師事）、野口幽谷、滝和亭（かてい）、安田老山、  
渡辺小華、奥原晴湖、菅原白龍、跡見花蹊（かけい）、児玉果亭、  
野口小蘋（しょうひん）など

京都－中西耕石、田能村直入（たのむら ちよくにゅう）、  
谷口靄山（あいざん）、富岡鉄斎など

特に、安田老山と奥原晴湖が人気を二分

帝室技芸員となるのは、田崎草雲、野口幽谷、滝和亭

児玉果亭は、菊池契月（けいげつ）の師

- ・続く世代－明治生まれ

山岡米華、小坂芝田（しでん）、

小室翠雲（すいうん）…田崎草雲に師事。南画壇の総帥で、現代水墨画の父。

松林桂月（まつばやし）…野口幽谷に師事。戦後まで活躍。南画の近代化を図る。

関東南画の系統（渡辺崋山→椿椿山（つばきちんざん）→野口幽谷→）。

### 2. 幕末・明治の浮世絵

- ・浮世絵は江戸の後期に流行ったが、明治になっても庶民の間では根強い人気があった。技術的には江戸よりも明治の方が優れていた。

- ・横浜浮世絵や開化絵、戦争を題材とした作品など。

歌川貞秀…豊国系。横浜絵画の第一人者

落合芳幾（よしいく）、三代歌川広重、月岡芳年、揚州周延（ようしゅうちかのぶ）、

豊原国周（くにちか）、西洋絵画を意識した光線画の小林清親（きよちか）

国芳系…絵師が最も多く、弟子の芳虎、芳員、芳幾、（月岡）芳年、周磨（河鍋暁斎）  
彼らから近現代の美人画の大家が輩出したため無視できない。

月岡芳年→水野年芳→鏑木清方、池田輝方・蕉園（しょうえん）夫妻

鏑木清方→伊藤深水

- ・横浜浮世絵から開化絵へ

三代歌川広重、二代広重、歌川芳虎、二代歌川国輝（くにてる）、昇斎一景

- ・小林清親－光線画。近代版画の先駆け。青森や弘前にも来る。

- ・月岡芳年－最後の浮世絵師。ちみどろ絵。

- ・明治 30 年代…写真が浮世絵に取って代わる。

### 3. 忘れられた明治の日本画家たち

- ・西洋の写実や人間重視を少しずつ取り入れながらも日本画の本質—自然崇拝の気持ちや対象への温かい眼差し—を忘れることは無かった。

- ・海外に知られた鬼才—河鍋暁斎

- ・菊池容齋門—松本楓湖（ふうこ）、渡辺省亭（せいてい）、私淑した梶田半古（はんこ）

武者絵—小堀鞆音（ともと）…近代歴史画の父

南北合派—荒木寛畝（かんぼ）、荒木十畝（じっぽ）

- ・門下から後の重要な画家たちも現れる。

松本楓湖門から—今村紫江、速水御舟（はやみ ぎょしゅう）、

小茂田青樹（おもだせいじゅ）

小堀鞆音門から—安田鞆彦（ゆきひこ）

梶田半古門から—小林古径、前田青邨、奥村土牛（とぎゅう）

- ・＜歴史風俗画会＞—小堀鞆音が組織。

明治末から大正初めにかけての大和絵興隆の一助となる。

水野年芳、関保之助（やすのすけ）、木村武山（ぶざん）、富岡永洗（えいせん）、

尾形月耕（げっこう）、下村観山、梶田半古など。また、

のちに紅児会で活躍する—安田鞆彦、今村紫紅、小林古径、前田青邨

のちの烏合会で活躍する—鏑木清方、池田輝方

- ・＜淡交会＞—民間の小さな展覧会で、小堀鞆音が組織。

横山大観、竹内栖鳳、山元春挙、川合玉堂、下村観山

- ・幸野楳嶺（こうの ばいれい）—京都画壇に栖鳳ら多くの俊英を育てる

1880 年、＜京都府画学校＞設立に尽力（日本最初の画学校）

久保田米僊（べいせん）、望月玉泉、巨勢小石（こせ しょうせき）とともに。

1890 年、＜京都字術協会＞を設立…久保田米僊らと。

＜楳嶺門の四天王＞

菊池芳文、竹内栖鳳、谷口香嶠（こうきょう）、都路華香（つじ かこう）

楳嶺塾（大成義会）—上村松園、川合玉堂。四天王も。

### 4. フェノロサと芳崖・雅邦、近代日本画第一世代

- ・フェノロサ（アーネスト・F、1853-1908）

マサチューセッツ州セーラム生まれ。ハーバード大学、大学院卒。スペンサーやヘーゲルを学んだ他、音楽や詩作に励み、ボストン美術館付属学校で製図と絵画を学ぶ。

1878年、妻を伴い来日。東京大学で政治学、理財学、哲学を教授。

教え子に、井上哲次郎、岡倉覚三、坪内雄蔵（逍遙）高田早苗、加納治五郎など。

高橋由一を訪れ洋画拡張論を説くが、まもなく日本画に関心を示す。東大予備門で教えていた浜町狩野家の狩野智信を知り、日本画家・野口雲錦に師事し、中橋狩野家に入門して狩野派の鑑定などを学び、たちまちに鑑定の大家となる。狩野永探という号も授けられる。

『美術真説』…1882年に竜池会の講演。油絵を排斥、日本画を奨励した。美には妙想（アイデア、まずはプラトンのアイデア）がなければならないと。美学的立場から、絵画に必要な「一〇格」を定めた。

通訳としてよく岡倉天心が同行した。狩野芳崖と橋本雅邦と邂逅する。

・ <木挽(コビキ)町狩野派の二神足（あるいは龍虎）>—狩野芳崖と橋本雅邦

<勝川院門の四天王>—芳崖、雅邦、木村立嶽（りつがく）、狩野勝玉（しょうぎよく）

師は木挽狩野勝川院雅信（ただのぶ）

・ 東京美術学校開校の準備—1885年、文部省の図画取調掛委員

天心、フェノロサ、芳崖、狩野友信

・ 橋本雅邦…芳崖死後まもなく、勝川院の塾頭。独学で油絵も学ぶ。

のち東京美術学校では狩野派を教え、懸腕直筆を旨とし、同時に「心もちの美学」を説き、学生各自の完成を尊重した。

・ 1884年、<鑑画会>…フェノロサら7名の会員。新画工集会を開催。

・ 1889年、日本画科のみで東京美術学校開校。

翌年、フェノロサは帰国。天心が中心となる。

教授陣—雅邦（狩野派）、川端玉章（円山派）、巨勢小石（大和絵）

## 5. 岡倉天心と日本美術院の作家たち

・ 雅邦門下の四天王—西郷孤月、横山大観、下村観山、菱田春草

・ 1896年、東京美術学校に西洋画科が増設、黒田清輝が赴任。天心と黒田の間に軋轢。

・ 1898年、東京美術学校事件。天心は校長辞職。17人が連袂辞職。日本美術院の創設。院展の開催（～1903）。

・ 1900年前後、<朦朧体>…空気遠近法。黒線を否定し色彩で塗る没骨主彩。主に春草、大観。観山も。

・ 1902年頃、朦朧体を越えてより色彩的に。殊に春草。

・ 1906年、日本美術院は五浦（いづら）に移転。天心、観山、大観、春草、木村武山が一家をあげて。

・ 1907年、文展（文部省美術展覧会）発足。審査員は日本美術院派が多く、旧派はボイコット。

第二回文展では旧派が盛り返し、今度は新派がボイコット。

第三回でやっと新旧両派が揃う。

正派同志会－旧派。日本美術協会と竜池会（1883-）宮様が総裁。

高島北海（ほくかい）、田中頼章（らいしょう）、山岡米華、小室翠雲、荒木十畝  
国画玉成会－新派。日本美術院、大同絵画会、巽画会、烏合会、紅児会、无声会（むせい）、二葉会（雅邦塾）、天真会、美術研精会、国香会、江戸っ子会などから。

## 6. 日本美術院第二世代の台頭と活躍－紫紅、靱彦、古径、青邨

- ・1914年、日本美術院研究所開院－日本美術院の再興

大観、観山、武山、小杉未醒（放庵）、靱彦、紫紅

- ・日本美術院第二世代の活躍－紫紅、靱彦、小林古径、前田青邨

1902年、＜紅児会＞－紫紅会（靱音門下）の靱彦。紫紅ら楓湖門人も参加。

青邨、古径の他に、牛田雞村（うしだけいそん）、御舟

- ・1914年、＜赤曜会＞…紅児会より少し若い、紫紅を親分とするグループ

御舟、雞村、青樹、富取風堂、中村岳陵（がくりょう）

（大正初期は紫紅の影響力が強く院展系の誰もが紫紅的な作品を描いた）

- ・新南画（大和絵風南画）－紫紅が始め、御舟が継ぐ。

- ・新古典主義－紫紅没後

＜院展の三羽鳥＞－古径、青邨、靱彦

## 7. 官展の歩み－東京画壇・京都画壇

- ・折衷派－川合玉堂…雅邦の絵に魅せられ雅邦に入門。

戦争中は西多摩郡に疎開、その後も奥多摩に住み続け、絵画のみならず和歌、俳句、長歌など文筆にも秀で悠々境の世界に遊んだ。

日本の四季の山河と、そこで生きる人間や動物の姿を美しい墨線と彩色で描くことを得意とした。玉堂のもとには、長野草風、池田輝方、池田蕉園、松本姿水、山内多門、高橋玉淵、今中素友ら多くの門人がいた。

- ・栖鳳とその門人たち－高弟たち

西山翠嶂（すいしょう）、西村五雲、土田麦僊（ばくせん）、上村松園、  
石崎光瑤（こうよう）、橋本関雪（かんせつ）、小野竹喬（ちつきょう）、  
村上華岳（かがく）、徳岡神泉（しんせん）池田遥邨、  
山口華楊（かよう、五雲一門による晨鳥（しんちょう）社の主宰者）、  
上村松篁（しょうこう、翠嶂の弟子）

- ・栖鳳以外の京都派

① 孤立している福田平八郎。

② 1918年、＜国画創作協会（国展）＞誕生

小グループ「無名会」「黒猫会」「仮面会」「光芒」などから。

竹喬、榊原紫峰（しほう）、麦僊、華岳、野長瀬晩華

宣言文起草：土田杏村（きょうそん、麦僊の弟、京都大学哲学科）

「生まるるものは芸術なり。機構に由（よ）って成るあらず」

他に、入江波光（はこう）、岡本神草（しんそう）、梶原緋佐子（ひさこ）

麦僊や紫峰は新古典主義的作風へと変わっていく

③ 京都派

山元春挙…円山派の野村文挙、森寛齋に師事。

友人・浅井忠から洋画技法で写実を取り入れ、独自の近代的風景画を生み出す。

代表作「ロッキー山の雪」「火口の水」。

京都画壇にあって、竹内栖鳳と並び称される。

画塾「同攻会（のち早苗会）などでの弟子

川村曼舟（まんしゅう）、小村大雲（たいうん）、

案本一洋（まつもと）、山本倉丘（そうきゅう）

菊池契月…菊池芳文に師事。急進派の栖鳳に対して穏健な斬新派。

＜菊池塾＞一宇田荻邨（てきそん）、梶原緋佐子

学校の子弟たち一デカダン風な若手育成の一端を担う。新古典主義的。

秦テルヲ（はだ）、甲斐庄楠音（かいのしょう ただおと）、岡本神草、宇田荻邨

・円山四条派一川端玉章と无声会

川端玉章…高橋由一に洋画も学ぶ。東京美術学校で円山派を教授。

春草の卒業制作「寡婦と孤児」は川端の影響。

1900年、＜无声会（むせい）＞…自然主義絵画を高らかに標榜

福井江亭（こうてい）、島崎柳塙（りゅうう）、渡辺香涯（こうがい）、

大森敬堂、平福百穂、そして塾外の石井柏亭（はくてい）

1909年、川端学校を設立…個性派の画家たちの排出

門人たちが指導一山田敬中、島崎柳塙、福井江亭ら

弟子たち一落合朗風（ろうふう）、小松均、岩崎巴人（はじん）、

工藤甲人、横山操

玉章の作風は結城素明の弟子である東山魁夷（かいいい）まで続く。

平田百穂…アララギ派の歌人としても名高い。歌集『寒竹』。

1915年、＜珊瑚会＞…川端龍子、小川千甕（せんおう）、小川芋銭（うせん）と。

1916年、＜金鈴社＞…鏑木清方、吉川靈華、素明、映丘

素明と映丘は東京美術学校で弟子を二分

素明門一東山魁夷、加藤栄三、山田申吾（しんご）

1937年、大日美術院を創設一素明、川崎小虎（しょうこ）、青木大乘の3人で

常岡文亀（ふんき）が出品

・松岡映丘一門の新興大和絵運動。大和絵の技法も。

1908年、歴史風俗研究会を自宅で。青邨、須高、長野草風、

磯田長秋（ちょうしゅう）、伊藤紅雲（こううん）

東京美術学校の秀才たちは皆、映丘門に入ったといわれる。

家塾<常夏荘>からは

山口蓬春（ほうしゅん）、杉山寧（やすし）、橋本明治、

山本丘人（きゅうじん）、高山辰雄

1921年、新興大和絵会一映丘門人たち

岩田正巳（まさみ）、狩野光雅（こうが）、遠藤教三（きょうぞう）、

穴山勝堂（しょうどう）

1934年、<瑠爽画社>を結成一浦田正夫、山本丘人、杉山寧、河部貞夫、岡田昇

・美人画家たち

尾形月耕（げっこう）、梶田半古、鏑木清方、寺崎広業（こうぎょう）、

富岡永洗（えいせん）、上村松園

池田輝方（てるかた）、伊藤深水

<閨秀の三園>一上村松園、池田蕉園、島成園

「シエカの風」瀬川紀雄